

## 第10回 (最終回) 報告

### 百里基地反対闘争のまとめ 試案その2

7月8日(土)に百里公民館で、10回目の「百里を語る会」が行われ、7人が参加しました。とても暑い日でしたが、涼しい室内でおよそ2時間、今までの学習内容を振り返りながら講師の伊達さんを中心にみなで語り合いました。

最終回の今回は、百里のたたかいが戦後日本の政治・経済のなかでどのような意味があったのか。それはまた、戦後の平和運動、就中、全国の基地闘争のなかで百里はどのような意義があったのか。さらに、憲法9条を守る運動との関係で如何なる位置づけがなされるのか。「自衛隊は憲法違反」とする百里のたたかいを憲法9条との関連で戦後のあゆみの中で客観的にみることになりました。

### 百里闘争の歴史的意義

#### 1 不動の信念「戦争のためには土地を売らない」を貫いた

百里のたたかいのスローガン「戦争のためには土地を売らない」「自衛隊は憲法違反」は憲法9条の核心「陸海空軍、その他の戦力は保持しない。国の交戦権は認めない」を本質的に表現しているものです。半世紀以上にわたる百里農民のたたかいの意義は誰もが認めるように、このスローガンを大地にしっかり腰を据えて実践してきた事にあります。どんなに状況が変わろうが、どんなに苦しかろうが「不動の信念」で貫いてきた事です。

#### 2 大地に根を下したたたかい

9条改正反対の国民運動は何度もありましたが、そのたたかいの根底的・実践的位置にあったのが大地に根を下ろした百里のたたかいでした。このことは憲法を守る側の勢力でも余り意識されませんでした。

#### 3 「自衛隊は憲法違反」の立場で運動を構築していこう

百里のたたかいは憲法9条とともに歩む。国民の憲法意識が多様化する中で、安倍内閣は集団的自衛権までもが憲法違反ではないという政治的状況を生み出しています。憲法9条の核心である「自衛隊は憲法違反」の立場を踏まえて運動を構築することが百里のたたかいに課せられた課題ではないでしょうか。

#### 4 平和国家への道をもつて進む

戦後日本は二つの道を歩んできました。一つは経済大国→政治大国→軍事大国の道です。もう一つは、経済大国→福祉大国→平和国家への道です。戦後の日本はこの二つの道を保守・革新という形で錯綜しながら進んできました。21世紀の世界の動きの中で平和国家の道をもつて進むのが百里農民の「不動の信念」を活かすことだと思います。